

# 『立法と調査』400号に思う

企画調整室長

みのべ はるひこ  
美濃部 寿彦

「立法と調査」は、昭和39年3月に創刊し、時の政策課題や予算・税制の解説、国会提出法律案や国会論議の紹介など、これまで54年間刊行され、ここに400号を迎えることとなりました。この間、企画、編集、執筆に関わった各位に心から敬意を表するとともに、議員をはじめ熱心な読者の皆様には、時に厳しくも、示唆に富む多くの声をお寄せいただき、衷心より感謝いたします。

創刊号では、昭和39年度予算の基本性格、公共投資と長期計画、地方財政計画の概要、税制改正、OECDと我が国の加盟、ILO第87号条約批准問題などが取り上げられ、内政外交にわたる深い論述が掲載されています。編集後記によれば、本誌の創刊は、当時の調査員の中の熱心な論議に由来し、本誌刊行を「新国会が発足して以来すでに17年、調査室の定期刊行物の発行はむしろ遅すぎたという感じが深い」と自責の念を表明し、しかも「何分にも、こうした雑誌作りには素人ばかりのため、努力はしたものの、第1号の出来栄えについては、正直なところ自信はない」と告白し、「大方の御叱正を得て、これが段々と育つよう、御援助、御協力を心から御願ひ申し上げたい」と至って静かな船出だったようです。

その後、本誌は、時々の政策課題に加え、別冊や特集を企画し、昭和40年代には「人口急増地域のなやみ」、「列島改造問題」、50年代には「情報化時代のプライバシー保護」、「迫りくる高齢化社会へ向けて」、さらに平成に入り「外国人労働者問題を考える」、「地球環境問題」、「一極集中の是正に向けて」、「進行する少子社会」、「財政構造改革を考える」、そして近年では「東日本大震災」、「平和安全法制」など、政策分野を横断する、困難なテーマにも果敢に取り組んで参りました。

そして、本誌は、今日では、印刷部数としては1,000部に満たないものの、本院ホームページを通じ国内外に発信され、財政、金融や景気動向など経済関係の論文を中心に提供する、平成17年創刊の同じく参議院調査部門発「経済のプリズム」とともに、国会における政策論議を支える貴重な資料の一つとして、また、国会の議論を広く国民に伝える媒体として、大いに期待される存在に成長したと確信しています。

国会は、議会制民主主義を体現する舞台であり、参議院は立法機関の一翼として、熟慮の府、再考の府として国民からの信託に応える責務を負っています。この責務は、国会における活発かつ建設的な審議を通じて果たされますが、参議院の調査室は、国会審議を直接あるいは間接に支える任務を担っています。「立法と調査」は、このような参議院の崇高な使命を自覚する一人一人の調査員の思索の結晶とも言えます。

今後とも、本誌が参議院調査室発の論考として、国会論議の深化にいささかなりとも貢献し、引き続き期待に応えられますよう、微力を尽くす所存です。議員をはじめ読者の皆様の忌憚のないご意見を賜りますよう、心からお願い申し上げます、第400号刊行記念の言葉といたします。